

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 |      |                                                                                                    |                                                                                           |                                                                                                                                         |            |
|----------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 優先順位     | 項目番号 | 現状における問題点、課題                                                                                       | 目標                                                                                        | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容                                                                                                                      | 目標達成に要する期間 |
| 1        | 2    | 事業所が地域の一員として、日常的に交流ができるよう、近隣住民への働きかけをしながら活動を展開する。                                                  | 事業所が市街地から離れた地域にあるが、近隣には住宅もあるので、隣近所を巻き込んだ活動を展開し、創意工夫しながらの地域のつきあいに力を入れていく。                  | 行事等がある場合には、お知らせを手渡して配ったりして、積極的に活動していく。地域の集会等にも参加して情報を収集し、行政・学校の行事にも参加して交流の機会を持ちます。事業所も地域に還元をして勉強会等を計画し、情報を流して地域の一員として暮らしていけるよう交流を図っていく。 | 6ヶ月        |
| 2        | 4    | 市担当職員との連携が日頃より十分な連絡が取れていないので、積極的に事業所の実情やケアサービスの取り組みを話し合える場を計画する。                                   | 市町村との連携は、情報の共有としてとても重要であり、お互いの情報の交換の場である。積極的に担当職員との連絡を密にし、協力関係が築けるようにしていく。                | 市町村担当職員との連携として、入居者及び事業所の状況の報告や困っている事、相談したい事等を密に連絡を取り合って、担当者との話し合いにて意志の疎通を図っていく。年に1～2回は意見交換会を計画し、入居者・職員も交えながら話し合いをしていく。                  | 12ヶ月       |
| 3        | 5    | 身体拘束は人権の侵害であり、人間の尊厳を無視したものである。当ホームではミトンを使用した拘束があるので、原因を追求し、何故拘束が必要なのか、拘束しない方法はないのか、職員全員で話し合いをしていく。 | 入居者の人権と尊厳を大切に、専門職として身体拘束の意義を再確認し、身体拘束を無くす方向で工夫を模索しながら職員一丸となって拘束廃止に取り組んでいく。                | 拘束をしない方法はないのか、常に職員同士で話し合い、拘束廃止に向けて勉強会や外部研修等にも積極的に参加していく。拘束した時は、記録に書き、カンファレンスを持って話し合った内容を残していく。                                          | 12ヶ月       |
| 4        | 13   | 消防訓練において実施はしているが、近隣住民の参加・協力が得られていないので、参加できる機会を設けて声掛けを促し、住民の協力を仰いでいく。                               | 地域との協力体制を築くためにも、近隣住民の参加を粘りづよく促し、当ホームとの連携を図っていく。備蓄は災害時に備えて保管できるような品物を備えていく。                | 防災訓練は実施訓練の他に机上訓練も取り入れて職員の意識を高めていく。地域住民、近隣住民にはお知らせ等を配り、意見・要望等を聞いて必要あれば勉強会等を計画し、近所付き合いを大事にしていきたい。備蓄は保管場所を検討し、必要な物品を揃えて、いつでも使用できる態勢にしておく。  | 12ヶ月       |
| 5        | 15   | 食事は入居者と職員が同じ食卓で同じ食事をテーブルで囲み、会話しながら食事を楽しむことが理想とされている。入居者と職員が楽しく会話をしながら食事を摂れようしていきたい。                | 家庭的な雰囲気テーブルを共にして、会話を盛り上げて食事を楽しむ。食事は楽しみながら和気あいあいと食べると食欲が増してきます。美味しく食事がとれるように私達職員は支援していきます。 | 食事時は、入居者と職員が同じ食事を摂り、同じテーブルにて会話を楽しみながら食事を摂る。                                                                                             | 3ヶ月        |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。